

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

PROGセミナー2014

ジェネリックスキル測定テスト PROGのご紹介

主催 学校法人河合塾 株式会社リアセック 株式会社KEIアドバンス

【共通テーマ】

ジェネリックスキルの「**評価**」と「**育成**」を大学教育改革に活かすために

—現状の「見える化」が改革を加速させる！—

【大阪会場】

IRによる教育改革と連動する、ジェネリックスキルの「**評価**」

—データの共有化からはじめる教育改革の進め方—

【東京会場】

大学と社会をつなげる、ジェネリックスキルの「**育成**」

—事例からみえてくる授業・カリキュラム改善のポイント—

評価の「妥当性」「信頼性」「実行可能性」

- **妥当性**: 育てたい力の内容を評価しているか？
 - ルーブリックの妥当性 → 教育と社会・企業との接合？
- **信頼性**: 評価者は育てたい力を正しく評価しているか？
 - 評価者による評価のバラツキ → ex. 高校の内申書
- **実行可能性**: 評価者が実施可能な評価方法か？
 - すばらしい評価方法でも皆が実施できなければ意義が薄れる！
 - 評価疲れ！



- **妥当性と信頼性を持ち、かつ実行可能な評価方法を探る**

1-1 大学教育とジェネリックスキルの育成と評価

金沢工業大学シラバス

平成22年度 学習支援計画書

再生紙を使用しています。

授業科目区分	科目名	単位	科目コード	開講時期	履修条件
修学基礎教育課程 修学基礎科目 修学基礎	コアガイド (EM) Introduction to Major	1	0005-01	4期 (後学期)	修学規程第5条別表第2を参照
担当教員名	研究室	内線電話番号	電子メールID		オフィスアワー

(中 略)

⑧ ②, J, * 確率・統計の基礎を理解するとともに、データの取りまとめや分析に応用することができる。

達成度評価

評価方法 指標と評価割合		試験	クイズ 小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
		総合評価割合	0	45	45	0	0	10	0
総合力指標	知識を取り込む力	0	15	10	0	0	0	0	25
	思考・推論・創造する力	0	15	10	0	0	0	0	25
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表・表現・伝達する力	0	5	10	0	0	0	0	15
	学習に取り組む姿勢・意欲	0	10	15	0	0	10	0	35

※総合力指標で示す数値内訳は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価の方法

■ 成長のエビデンス:ポートフォリオ

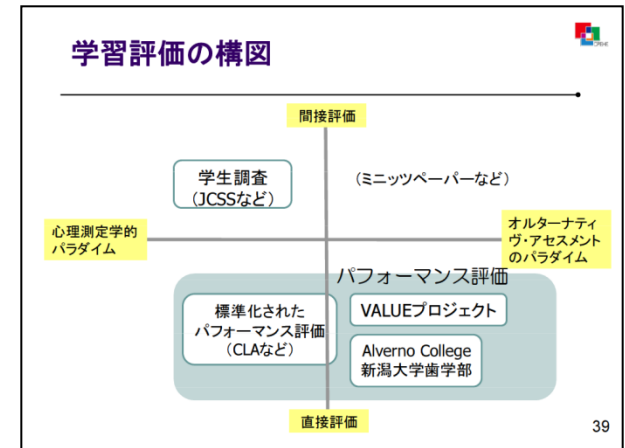
- 学生の活動や成果の記録と振り返り
- 教員のコメント

■ 間接的評価:学生自身の自己評価

- 自己評価シート、アンケート、ルーブリックを用いたセルフチェック 等
(個人の認知に基づく主観評価)

■ 直接的評価:成果・活動そのものの評価

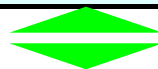
- プレゼンテーション等のパフォーマンス評価、評価者による多面評価等
(評価基準をルーブリック等で明確にし、評価訓練を受けた者が客観的に評価)
- 標準化テスト(共通テスト) 等
(外的基準に照らした客観評価)



松下佳代(京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授)

1-3 標準化テストの実例

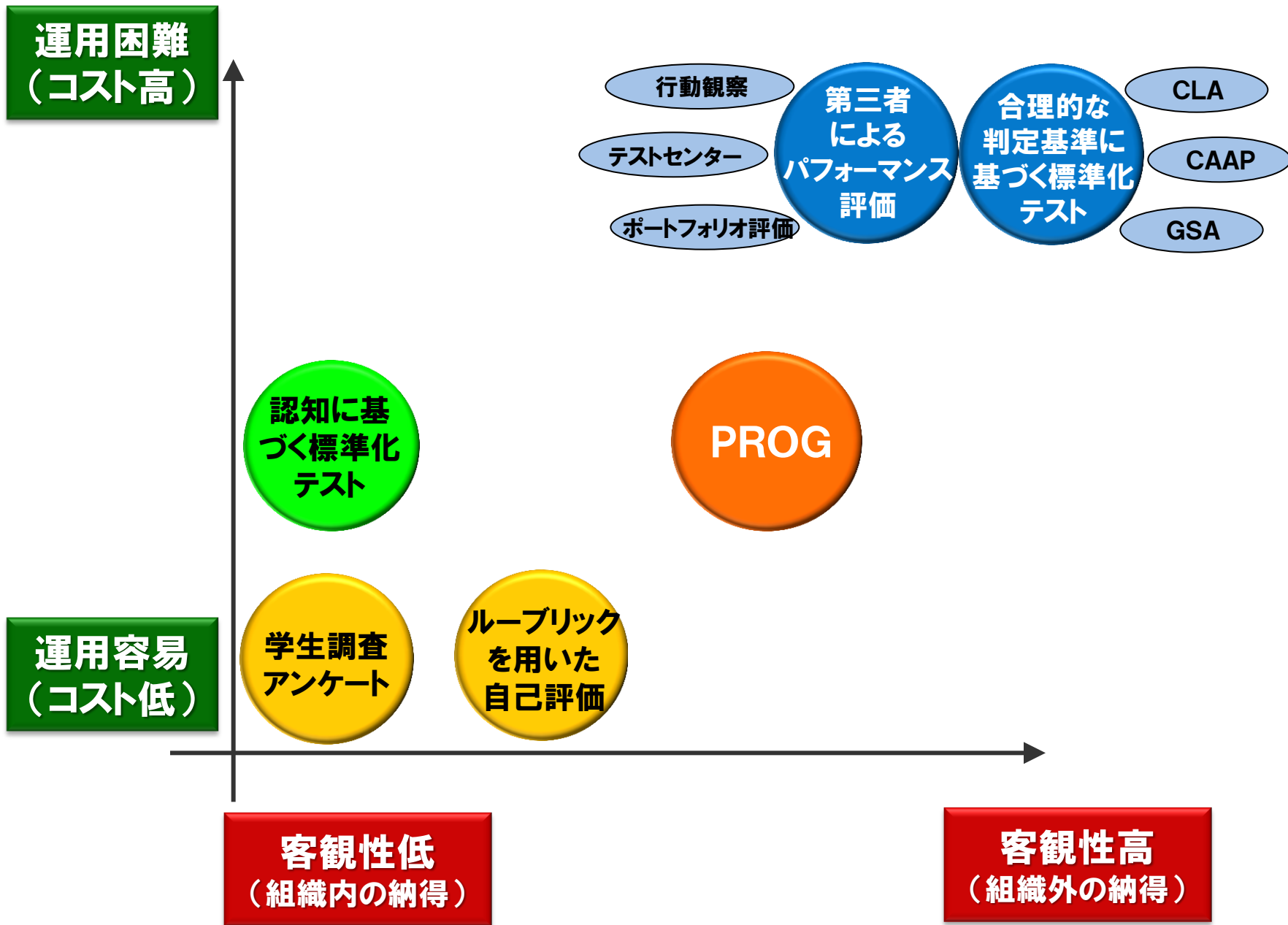
国	テスト名称	実施機関	内容	テスト方法	所要時間
アメリカ	● <u>CLA</u> (The Collegiate Learning Assessment)	CAE	<ul style="list-style-type: none"> ■ 批判的思考力 ■ 問題解決力 ■ 分析推理力 ■ 文章表現力 	作業完成形式 記述形式	3時間
	● <u>MAPP</u> (Measure of Academic Proficiency and Progress)	ETS	<ul style="list-style-type: none"> ■ 批判的思考力 ■ 数学分野能力 ■ 読解力 ■ 文章表現力 	多肢選択形式 記述形式	8時間
	● <u>CAAP</u> (Collegiate Assessment of Academic Proficiency)	ACT	<ul style="list-style-type: none"> ■ 批判的思考力 ■ 数学分野能力 ■ 科学分野能力 ■ 読解力 ■ 文章表現力 	多肢選択形式 記述形式	4時間
オーストラリア	● <u>GSA</u> (Graduate Skills Assessment)	ACER	<ul style="list-style-type: none"> ■ 批判的思考力 ■ 問題解決力 ■ 文章表現力 ■ 対人理解力 	多肢選択形式 記述形式	3時間



日本	● <u>PROG</u> (Progress Report on Generic Skills)	KRT 河合・リアセツ クテストセン ター	<ul style="list-style-type: none"> ■ リテラシー ■ コンピテンシー 	多肢選択形式 (一部記述形式)	90分
----	--	--------------------------------	--	--------------------	-----

大学と学生個人の双方にフィードバックが可能

1-4 評価の特性とコストの関係(概念的整理)

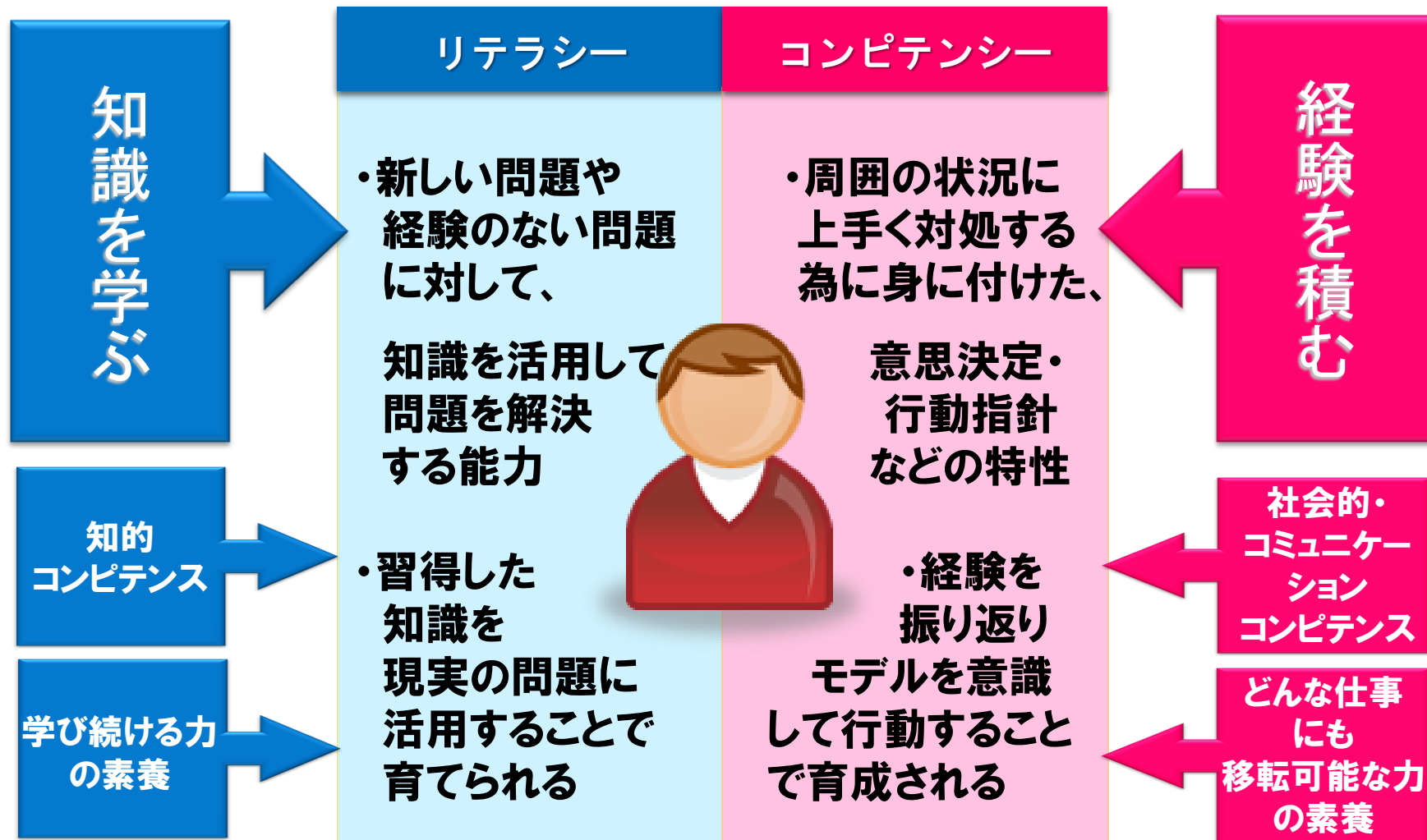


PROG (Progress Report of Generic skills)

- 2-1 評価の妥当性 (構成概念の妥当性①②、予測妥当性③④)
 - ① OECD「キー・コンピテンシー」との親和性
 - ② 「学士力」「社会人基礎力」との親和性
 - ③ 企業社会との親和性
 - ④ 就職やキャリア形成との親和性
- 2-2 評価の信頼性
 - ⑤ 潜在ランク理論の活用
 - ⑥ データの蓄積による信頼性の向上
- 2-3 評価の実行可能性
 - ⑦ 短時間で複数回実施可能
 - ⑧ 大学の教育目標との融合

2-1 評価の妥当性

- PROGは、「リテラシー」と「コンピテンシー」の2側面からジェネリックスキルを測定。
- 「リテラシー」とは、知識を基に問題解決にあたる力。知識の活用力や学び続ける力の素養をみる。
- 「コンピテンシー」とは、環境に効果的に対処するために身に付けた行動特性。どんな仕事にも移転可能な力の素養をみる。

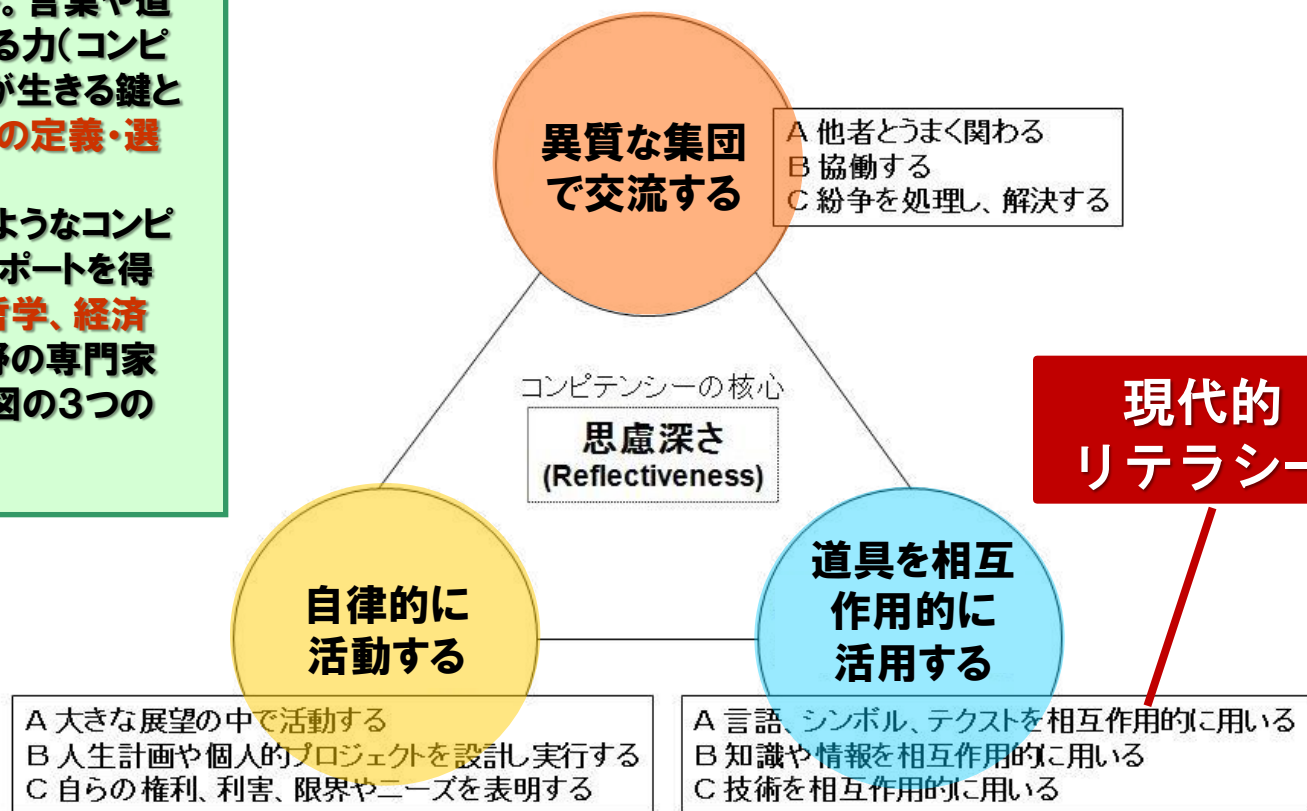


OECDのDeSeCoプロジェクトとは

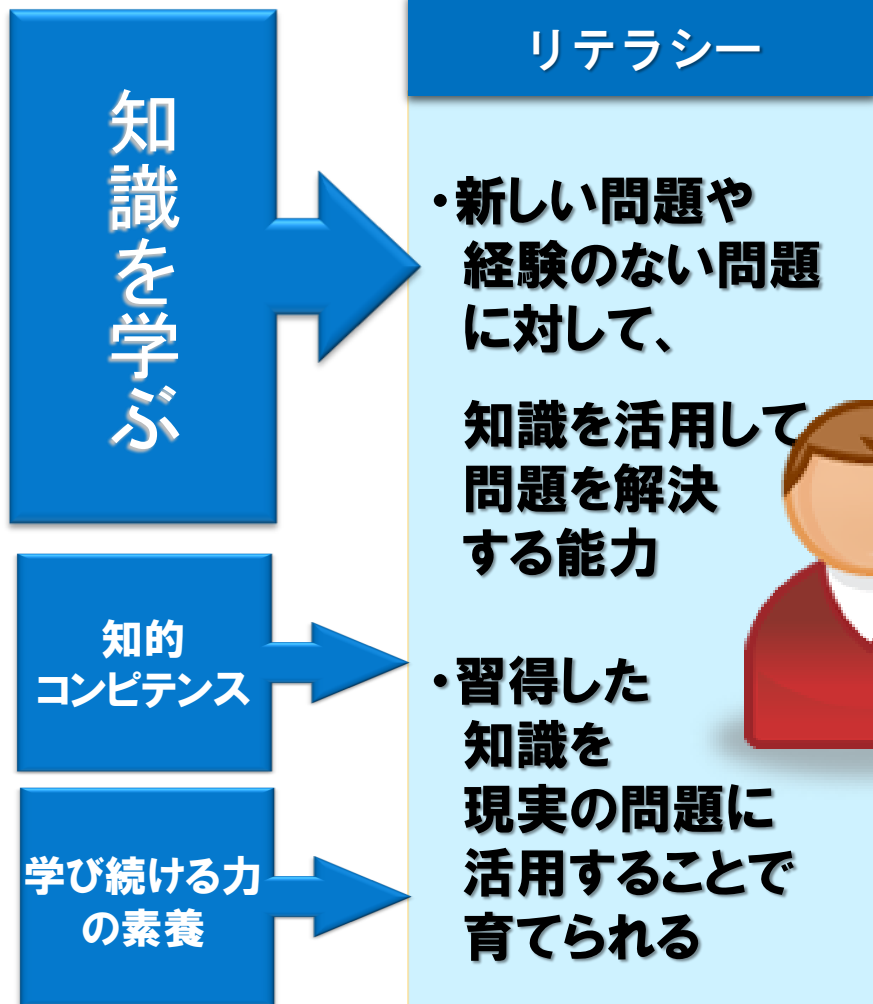
OECDが1999年～2002にかけて行った、国際合意の基で新たな能力概念を定義しようとしたプロジェクト。言葉や道具を行動や成果に活用できる力(コンピテンス)の複合体として、人が生きる鍵となる力、**キー・コンピテンシーの定義・選択**を行った。

12の加盟国から今後どのようなコンピテンシーが重要となるかのレポートを得て、その結果を**教育学から哲学、経済学、人類学など**、様々な分野の専門家が学際的な討議を行い、右図の3つのカテゴリーにまとめた。

3つのキー・コンピテンシー



国立教育政策研究所HPより作成(2012.7時点)



OECD DeSeCoプロジェクトによる「キー・コンピテンシー」との対応

■ 道具を相互作用的に活用する力

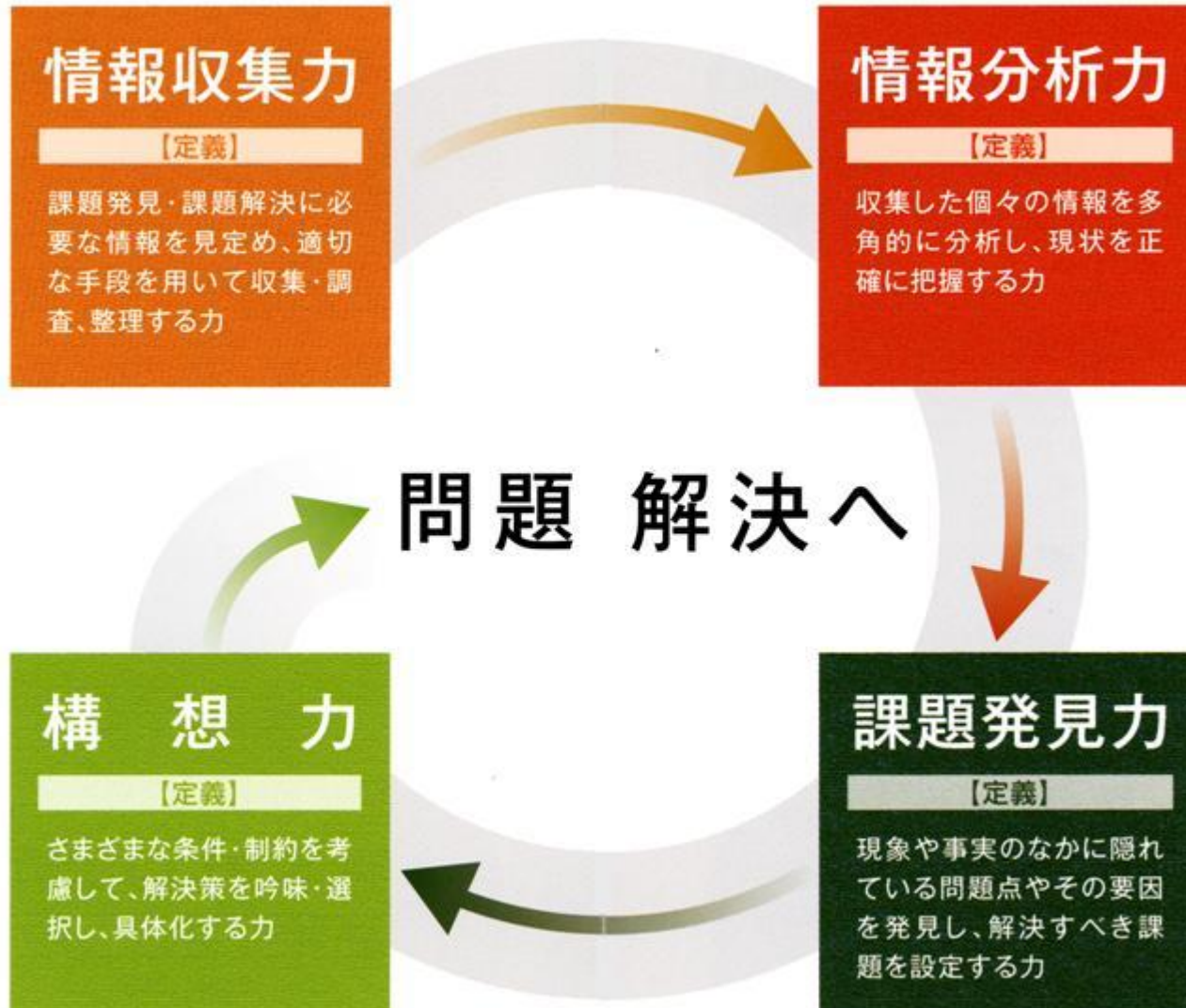
- 言語・シンボル・テキストを相互作用的に活用する力
 - ・言語スキル(話し言葉、書き言葉)や、数学的スキル(グラフ、表、その他さまざまなシンボル)を活用し、**社会的コミュニケーションに効果的に参加すること**
- 知識や情報を相互作用的に活用する力
 - ・情報の特徴、社会的・イデオロギー的な文脈を批判的に考察することを前提に、**知識や情報を自律的に見つけ、思慮深く、責任を持って活用すること**
- 技術を相互作用的に活用する力
 - ・情報・通信・コミュニケーション・コンピュータ技術の目的や機能を理解して、**課題に対する技術的な解決策を見出すこと**

新学習指導要領の基本方針との対応

■ 思考力・判断力・表現力等

- 習得した知識・技能を相互に関連付けながら総合的な課題の解決にあたる力

問題解決のプロセスに沿って整理 質問紙法に適した4つの領域を測定



③ 課題発見力

テスト項目

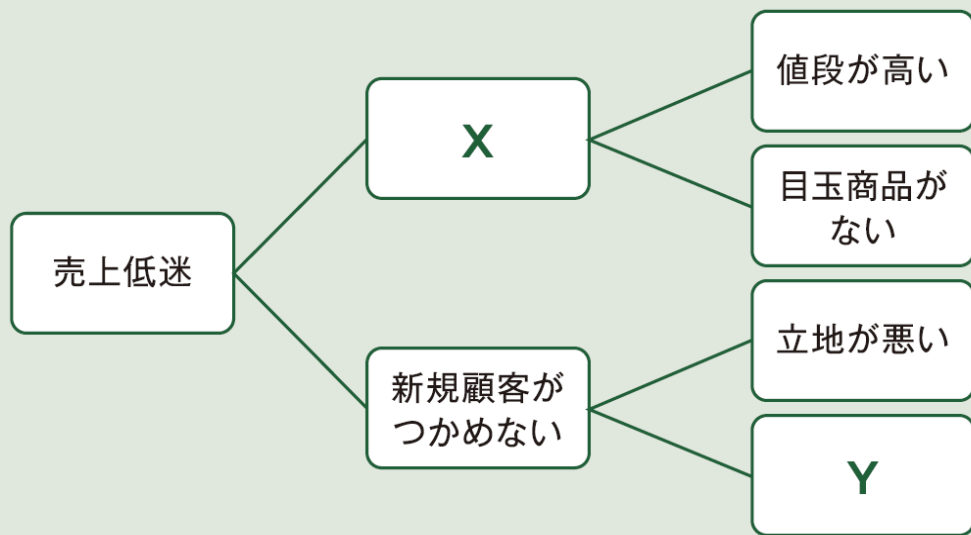
- 1) 問題の洗い出し ブレインストーミング／SWOT分析など
- 2) 問題の整理・分析 問題の構造化／原因追求(親和図法・ロジックツリー)など
- 3) 課題の設定 問題の優先順位／資源の分析／課題の明確化など

問題のサンプル

以下は、ある洋菓子屋の売上低迷の原因についてロジックツリー※を使って探究したものです。ロジックツリーの空欄X・Yに適切な文言を、選択肢から選んで答えてください。

※ロジックツリーとは：物事を論理的に分析・検討するときに、その論理展開を樹形図に表現して考えていく思考技法

- ① 売り上げが上がらない
- ② もともとケーキがあまり美味しくない
- ③ 既存顧客の購入活動の低下
- ④ 既存顧客の高齢化
- ⑤ 広報・宣伝活動の不足



OECD DeSeCoプロジェクトによる「キー・コンピテンシー」との対応

■社会的に異質な集団で交流する力

- 他者とうまく関わる力
 - ・相手の価値観、信念、文化的背景に共感し、自分の情動をコントロールして関係を維持・継続すること
- 協力する力
 - ・共通の目的に向って、他者と協力し、一緒に仕事をする事
- 対立を処理し、解決する力
 - ・対立する利害を調整し、または許容して解決策を見つけ出すこと

■自律的に活動する力

- 大きな展望の中で活動する力
 - ・システムの中で、自ら役割を決定し、行動の影響を予測し、コントロールすること
- 人生計画と個人的なプロジェクトを設計し、実行する力
 - ・楽観主義と自尊感情を前提に、自己を管理し、自ら学習して新しい仕事に取り組むこと
- 自らの権利・利益・限界・ニーズを守り、主張する力



コンピテンシー

・周囲の状況に上手く対処する為
に身に付けた、

意思決定・行動指針などの特性

・経験を振り返りモデルを意識して行動することで育成される

経験を積む

社会的・コミュニケーション
コンピテンス

どんな仕事にも
移転可能な力の
素養

2-1 評価の妥当性 ②「社会人基礎力」「学士力」との親和性

PROGのコンピテンシー (リクルートと共同定義した基礎力)		内容	構成要素	社会人基礎力 (経済産業省)		学士力 (文部科学省)				
対課題 基礎力	課題発見力	問題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	情報収集・本質理解・原因分析 など	考え抜く 力 (シンキング)	課題発見力	汎用的 技能	問題解決力			
	計画立案力	問題解決のための効果的な計画を立てる	目標設定・シナリオ構築・計画評価・リスク分析 など		計画力		論理的思考力			
	実践力	効果的な計画に沿った実践行動をとる	実践行動・修正・調整・検証・改善 など		創造力		情報リテラシー			
対人 基礎力	親和力	円満な人間関係を築く	親しみ易さ・気配り・対人興味・多様性理解・人脈形成 など	チームで 働く力 (チームワーク)	発信力		数量的スキル	数量的スキル		
	協働力	協力的に仕事を進める	役割理解・連携行動・相互支援・相談・指導・他者の動機付け など		傾聴力			コミュニケーションスキル	コミュニケーションスキル	
	統率力	場をよみ、目標に向かって組織を動かす	意見を主張する・創造的な討議・意見の調整・交渉・説得 など		柔軟性				チームワークリーダーシップ	チームワークリーダーシップ
対自己 基礎力	感情制御力	気持ちの揺れをコントロールする	セルフアウェアネス・ストレスコーピング・ストレスマネジメント など		状況把握力		態度・ 志向性			市民としての社会的責任
	自信創出力	ポジティブな考え方やモチベーションを維持する	独自性理解・自己効力感・楽観性・機会による自己変革 など		規律性			倫理観		
	行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける(学習行動を含む)	主体的行動・完遂・良い行動の習慣化 など		ストレスコントロール				自己管理力	
対自己 基礎力	感情制御力	気持ちの揺れをコントロールする	セルフアウェアネス・ストレスコーピング・ストレスマネジメント など	前に踏み 出す力 (アクション)	主体性	生涯学習力				生涯学習力
	自信創出力	ポジティブな考え方やモチベーションを維持する	独自性理解・自己効力感・楽観性・機会による自己変革 など		働きかけ力					
	行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける(学習行動を含む)	主体的行動・完遂・良い行動の習慣化 など		実行力					

求人段階で求められる能力から導出

「対課題」・「対人」・「對自己」の領域に整理

リクナビ掲載企業のうち、32業種計960社の選考基準のテキスト分析

PROGのコンピテンシー (リクルートと共同定義した基礎力)		内容
●対課題 基礎力	課題発見力	問題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う
	計画立案力	課題解決のための効果的な計画を立てる
	実践力	効果的な計画に沿った実践行動をとる
●対人 基礎力	親和力	円満な人間関係を築く
	協働力	協力的に仕事を進める
	統率力	場をよみ、目標に向かって組織を動かす
●對自己 基礎力	感情制御力	仕事場面での気持ちの揺れをコントロールする
	自信創出力	ポジティブな考え方やモチベーションを維持する
	行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける (学習行動を含む)

掲載件数
555件
124件
141件
65件
206件
469件
131件
88件
635件

両側選択形式

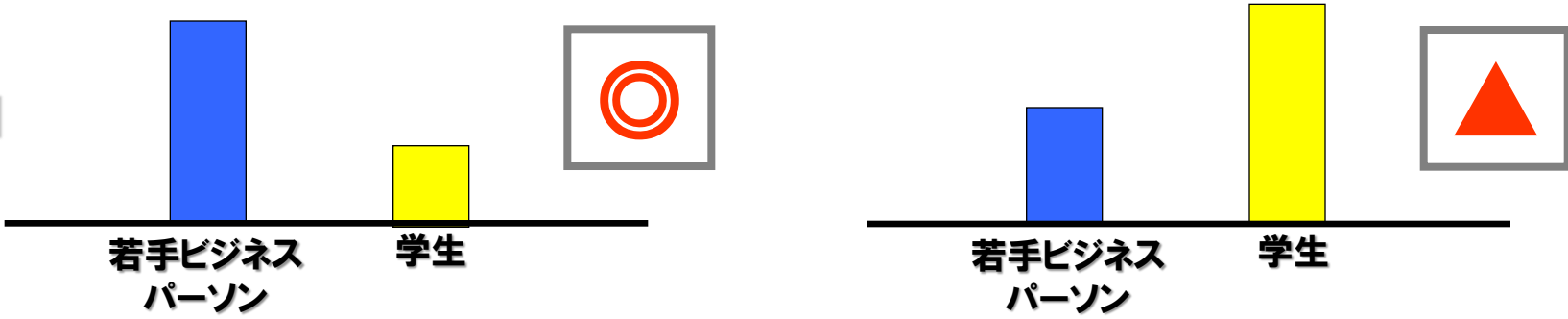
連番	A	B
1	初対面の人と話すときでも、相手と距離をおかず親しく接する	初対面の人と話すときには、距離をとって礼儀正しく接する
2	人に接するときは、壁をつくらず本音で会話する	人に接するときには、礼儀を大切にして丁寧に話す
3	感情に流されず、客観的な状況を分析して判断を下してきた	客観的な情報よりも、人の気持ちや人間関係に配慮して判断を下してきた
4	チームでものごとに取り組むときには、自分から率先して行動してきた	チームで物事に取り組むときには、周りに合わせて行動してきた
5	多少失礼だと思われても、相手の懐に飛び込んでいく	失礼のないように、慎重に言葉を選んで話す
6	おせっかいだと思われても、周りにいろいろと気を回す	相手の自尊心を傷つけないように、必要以上に余計な世話は焼かない

2-1 評価の妥当性 コンピテンシーテストの採点ロジック

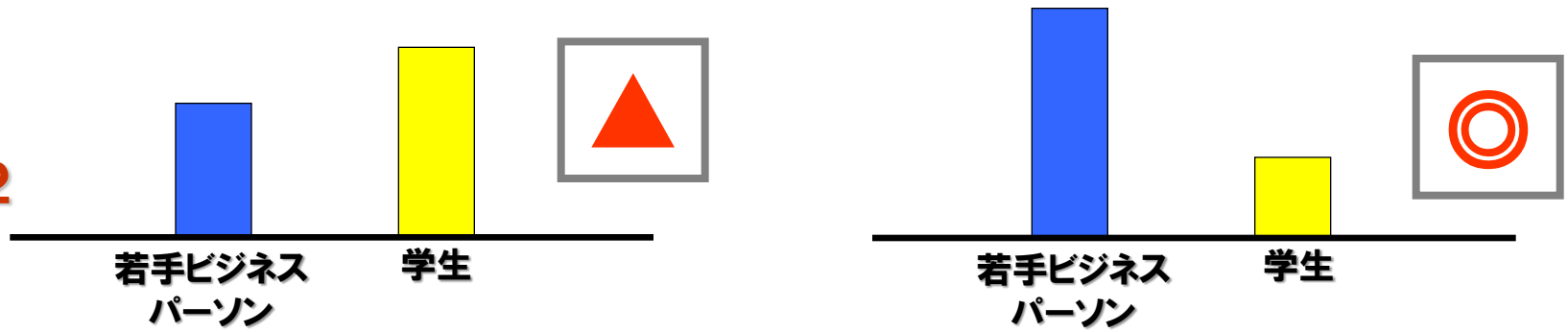
社会で活躍する若手ビジネスパーソン(※)と学生の回答のパターンを比較し、統計的に違いがある設問項目を抽出する(特性抽出)

連番	A	B
1	初対面の人と話すときでも、相手と距離をおかず親しく接する	初対面の人と話すときには、距離をとって礼儀正しく接する

設問1



設問2



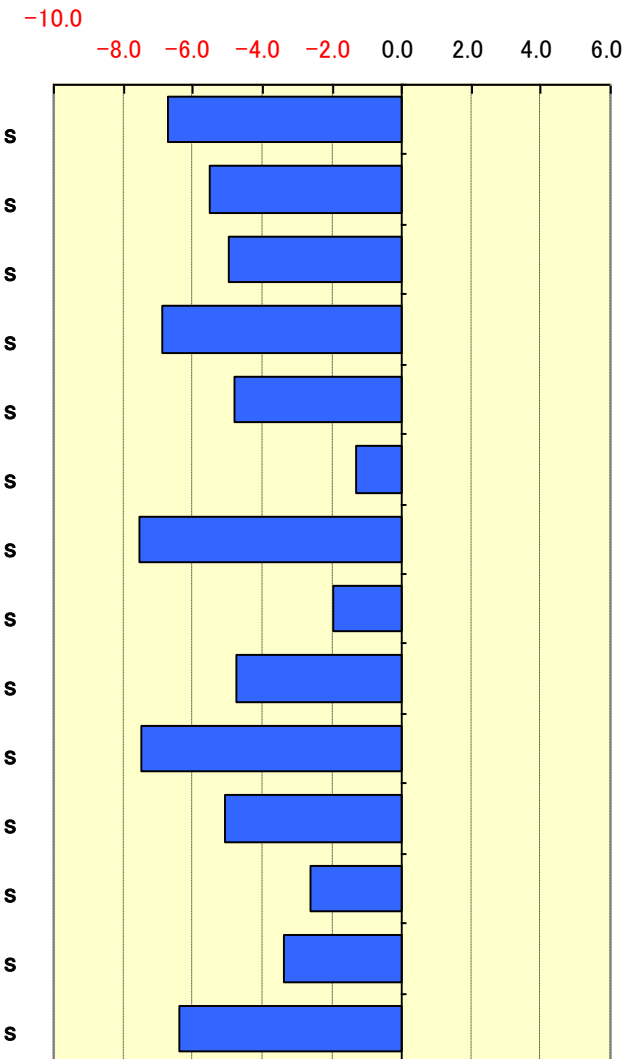
学生が意識的に虚偽の回答をした場合にも有意に差がある項目を中心に採用

※30代前半までに、役職についているか、または実質管理しているメンバーが複数いるビジネスパーソン

2-1 評価の妥当性 ④就職やキャリア形成との親和性

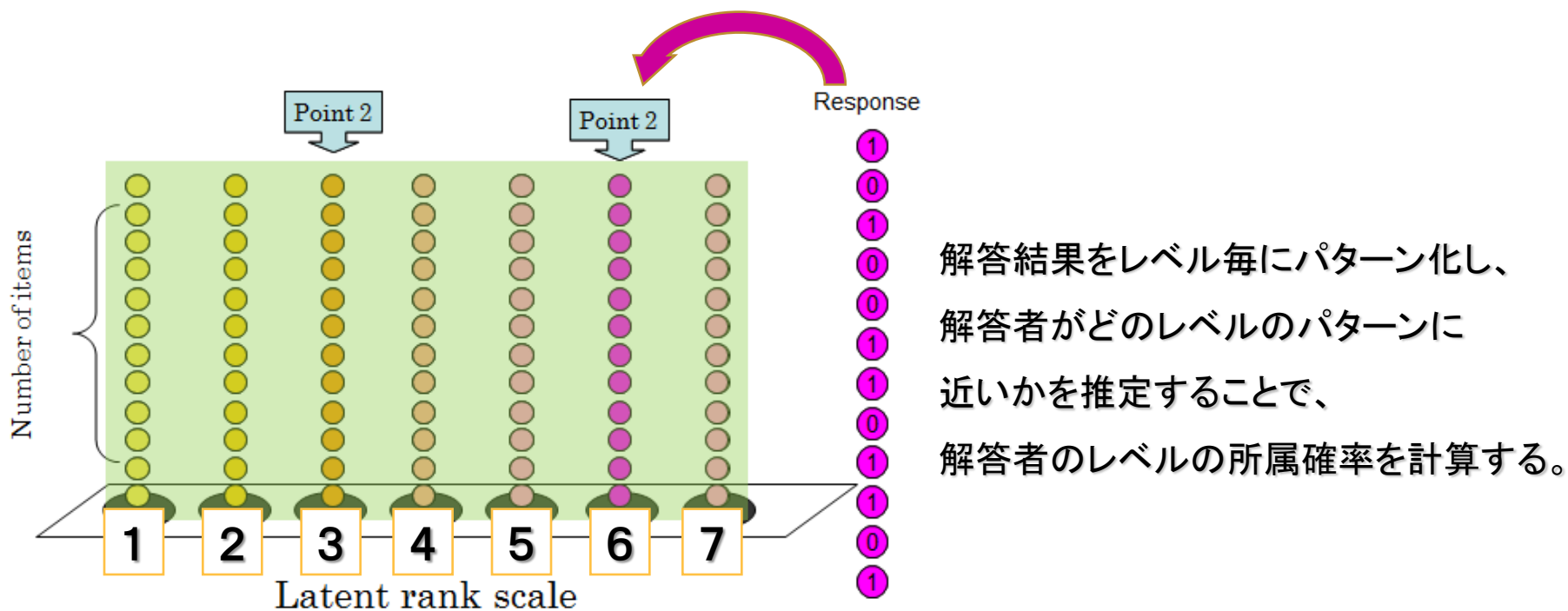
同様に、人気企業に内定する者の方が、基礎力は押しなべて高い。

A大学		① 規模800名以上 +金融+大手関 連 未内定	② 規模800名以上 +金融+大手関 連 内定	平均値差 (①-②)	Pr> t
		平均値	平均値		
総合	対課題基礎力	44.6	51.3	-6.7	0.171 s
	対人基礎力	47.3	52.8	-5.5	0.048 s
	對自己基礎力	46.5	51.5	-5.0	0.136 s
対課題基礎力	情報収集力	45.3	52.1	-6.9	0.103 s
	情報分析力	47.6	52.5	-4.8	0.233 s
	課題発見力	45.4	46.7	-1.3	0.755 s
	構想力	44.8	52.4	-7.5	0.085 s
対人基礎力	親和力	48.0	49.9	-2.0	0.555 s
	協働力	47.8	52.5	-4.8	0.094 s
	統率力	47.3	54.7	-7.5	0.022 s
對自己基礎力	感情抑制力	46.3	51.4	-5.1	0.151 s
	自信創出力	47.9	50.6	-2.6	0.470 s
	行動持続力	46.9	50.2	-3.4	0.256 s
	実行力	46.7	53.1	-6.4	0.042 s



※他の検査との比較のために、基礎力の分類が若干調整されている

潜在ランク理論に基づいて、能力をある幅をもった「レベル」として同定する



■ 解答結果から受験者を7レベル(あるいは5レベル)に分類

荘島宏二郎 Neural Test Theory(2007)、Latent Rank Theory(2007)参照

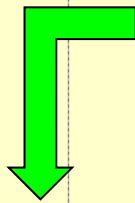
項目毎に、能力レベル別の正答率を分析し、CAN DO CHARTを作成する

A	B	要素	能力レベル別の正答率						
			1	2	3	4	5	6	7
問題の解決策を考えないといけないときは、関係する人達への影響を重視する	問題の解決策を考えないといけないときは、情を交えずに論理的に突き詰めて考える	課題発見力	0.65	0.70	0.67	0.67	0.66	0.72	0.94
関係する人達の利害を考えて、皆がある程度納得できる結論を導く	関係者の利害にとらわれず、客観的な情報を基に合理的な推論を重ねて結論を導く	課題発見力	0.59	0.67	0.66	0.67	0.69	0.77	0.94
何かについて調べるときには、できるだけたくさんの情報源から情報を集める	何かについて調べるときには、確実性を高めるために、情報源に注意して慎重に情報を集める	課題発見力	0.45	0.54	0.55	0.60	0.59	0.71	0.97
何かについて調べなくてはならないときには、関係のありそうな情報を幅広く集めてみる	何かについて調べなくてはならないときには、重要なポイントを絞って掘り下げてみる	課題発見力	0.38	0.52	0.58	0.58	0.58	0.74	0.96
短時間で必要な情報を効率よく集めるのが得意だ	短時間で情報を集めるような作業はあまり得意ではない	課題発見力	0.09	0.30	0.45	0.61	0.73	0.84	0.96
データを分析して、背後にある傾向を探索する	時間をかけてデータを分析するよりも、勘や経験で判断する	課題発見力	0.09	0.30	0.43	0.60	0.78	0.89	0.95
難しい問題ほど、最後は自分の気持ちや価値判断が重要になる	難しい問題ほど、公平性と客観性に基づく判断が重要になる	課題発見力	0.35	0.48	0.45	0.48	0.49	0.51	0.84
情報はまずは質よりも量を重視し、内容は後から吟味する	情報は量よりも質を重視して、内容を吟味しながら集める	課題発見力	0.34	0.38	0.39	0.42	0.37	0.41	0.65

2-2 評価の信頼性 「CAN DO CHART」の明示とその活用

基礎力分布

40% 30% 20% 10% 0%

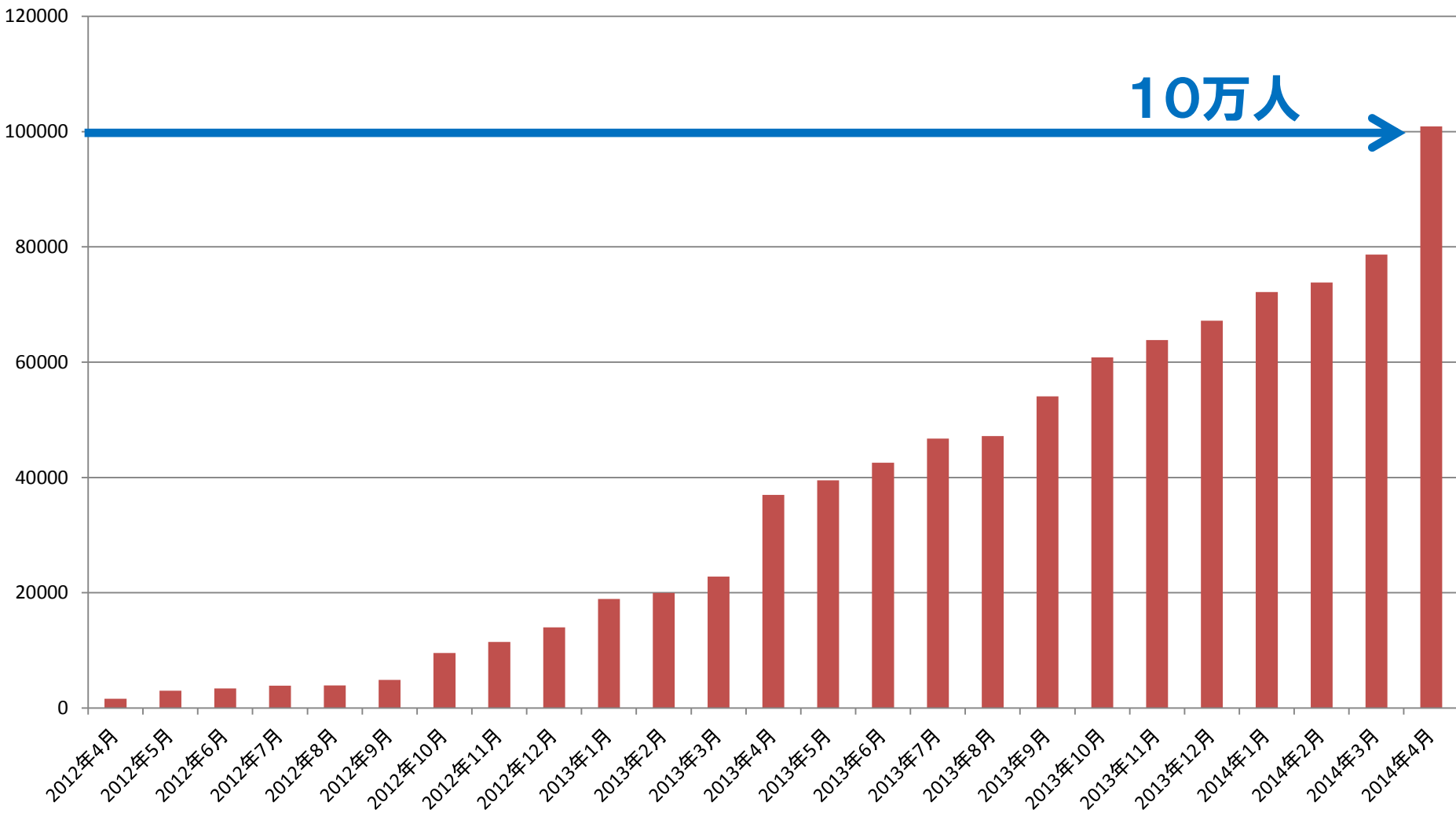


現状水準からの
レベルアップのためには？

		課題発見力	計画立案力	実践力
		課題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	課題解決のための適切な計画を立てる	実践行動をとる
		適切な方法で情報を収集し、事実に基づいて客観的に分析、本質的な問題を見極める。さらに、様々な角度から課題を分析し、原因を明らかにする力	明確な目標を立て、その実現に向けて効果的な計画を立てる。また、立てた計画に対して目標の実現や課題解決に向けての見通しを立てたり、どんな問題が起こり得るかのリスクを想定して事前に対策を講じる力	計画をすすんで実行し、状況に応じて柔軟に行動を修正する。また、行動を振り返って検証し、次の行動の改善に結びつける力
レベル 1	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対しての情報収集が、適切な方法でない場合が多い 情報整理・分析が甘くなりがちになる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で目標や計画を立てずに課題に取り組む 立案した計画や目標が現実的でないなど適切でないことが多い 	<ul style="list-style-type: none"> やるべきことでも、なかなか実行に移せない 実行はできて当初のやりかたで進めがちで、のちに振り返ることも少ない 	
レベル 2	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対し、自分なりに情報を集めることができる 集めた情報を、客観的に整理しようと努める 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して、目標と計画を立てることができる 立案した計画や目標に、自分なりに取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> やるべきことに対して、自分なりに試行錯誤しながら物事を進めていくことができる 	
レベル 3	<ul style="list-style-type: none"> 興味のある分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理、分析することができる 分析を基に、自分なりに因果関係の仮説を立てられる 	<ul style="list-style-type: none"> 条件が明確な課題であれば目標や発生しそうな問題を予め考えることができる 上記をふまえ具体的計画を立て取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 制約条件を考えながら、試行錯誤して物事を進めることができる 終了後には、成功か失敗かを振り返ることができる 	
レベル 4	<ul style="list-style-type: none"> 課題に応じ、様々な方法で情報を集めることができる 定性的データを客観的に整理し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 経験のあることならば不確定な部分があっても具体的で妥当な計画を立てられる 立案した計画の実現性を吟味することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てる 	
レベル 5	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して、定性データ・定量データを整理、分析することができる 複数の因果関係と現実とを結び付け仮説立てることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる 事前にリスクを検討、想定し、手を打つことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲に気を配りながら物事を進めることができる 進捗と状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる 	
レベル 6	<ul style="list-style-type: none"> 事実が複雑に絡み合っている問題でもデータを客観的に整理、分析できる 因果関係を整理し課題解決につなげることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 長期的な目標と同時に、途中段階の具体的な目標も設定し実現可能性を高める チームでの取り組みの際、メンバー分担を適切に行う 	<ul style="list-style-type: none"> 計画の実行中、全体の状況に気を配ることができる 先行きを予見し必要に応じて、早めに全体の動きを修正することができる 	
レベル 7	<ul style="list-style-type: none"> 興味のあることについて常日頃から情報収集している 合理的な判断だけでは難しい問題に対して、関係者の心情を 	<ul style="list-style-type: none"> 自身やチームにとって挑戦的な目標を設定し、取り組む条件を事前に検討することができる 	<ul style="list-style-type: none"> チームのより良い成果を挙げるため、即行動 	

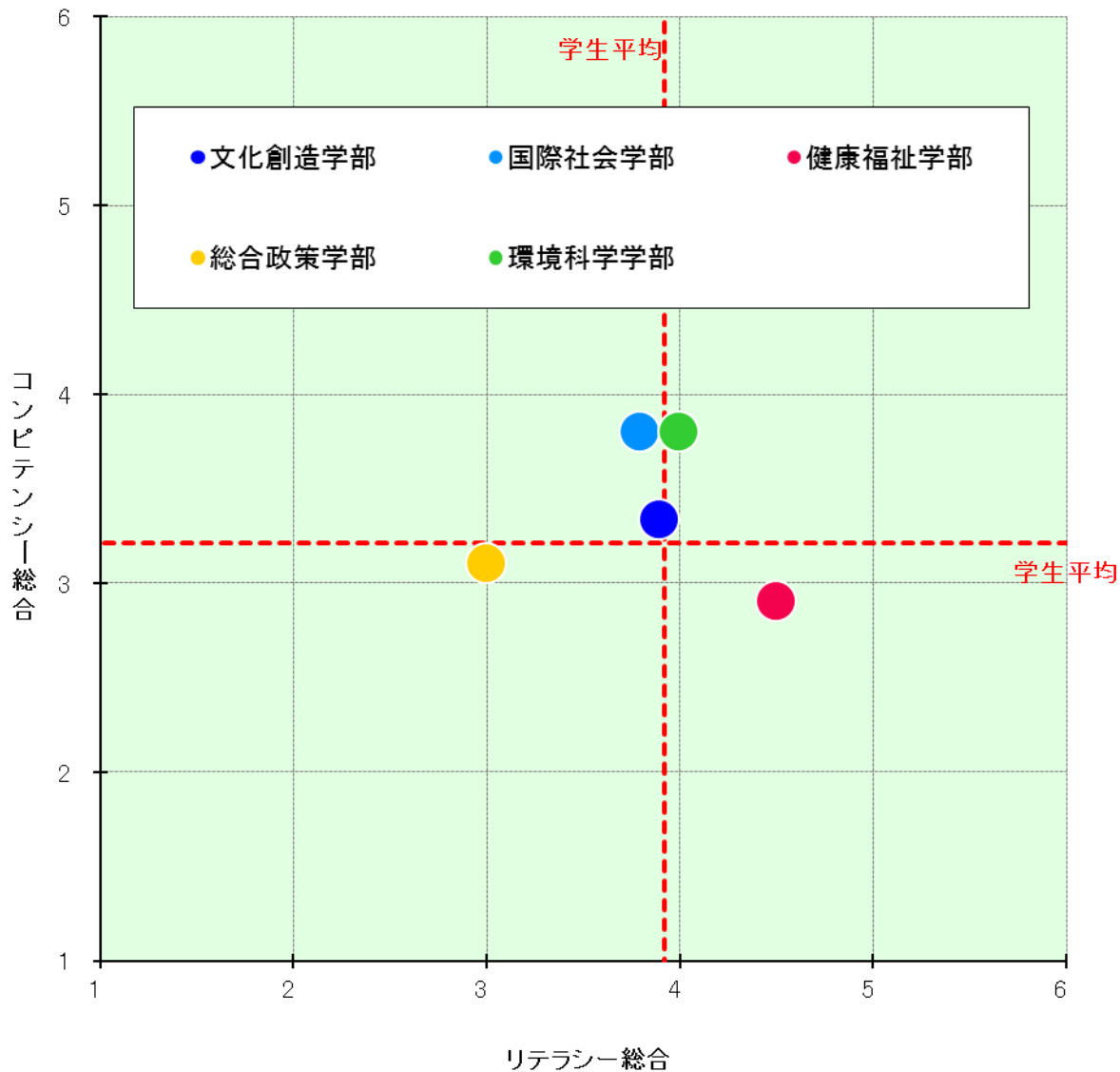
**CAN DO CHARTを用いることで、
学生の水準に合わせた、具体的な施策内容を考えることができる。**

累計受験者数(大学・短大)



2-2 評価の信頼性 平均値と個別大学のポジション

リテラシー総合 × コンピテンシー総合



～2014年度受験者
100,000名

●大学数:185校

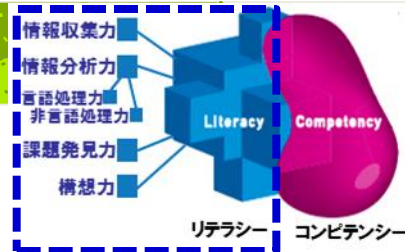
●学校区分
四年制大学:165校
短期大学:20校

●国公立内訳
国立:39校
公立:17校
私立:129校

●文理比率
文系:45.8%
理系:54.2%
その他:1.5%

●学年比率
1年生:62.8%
2年生:13.7%
3年生:19.4%
4年生:3.0%
その他:1.1%

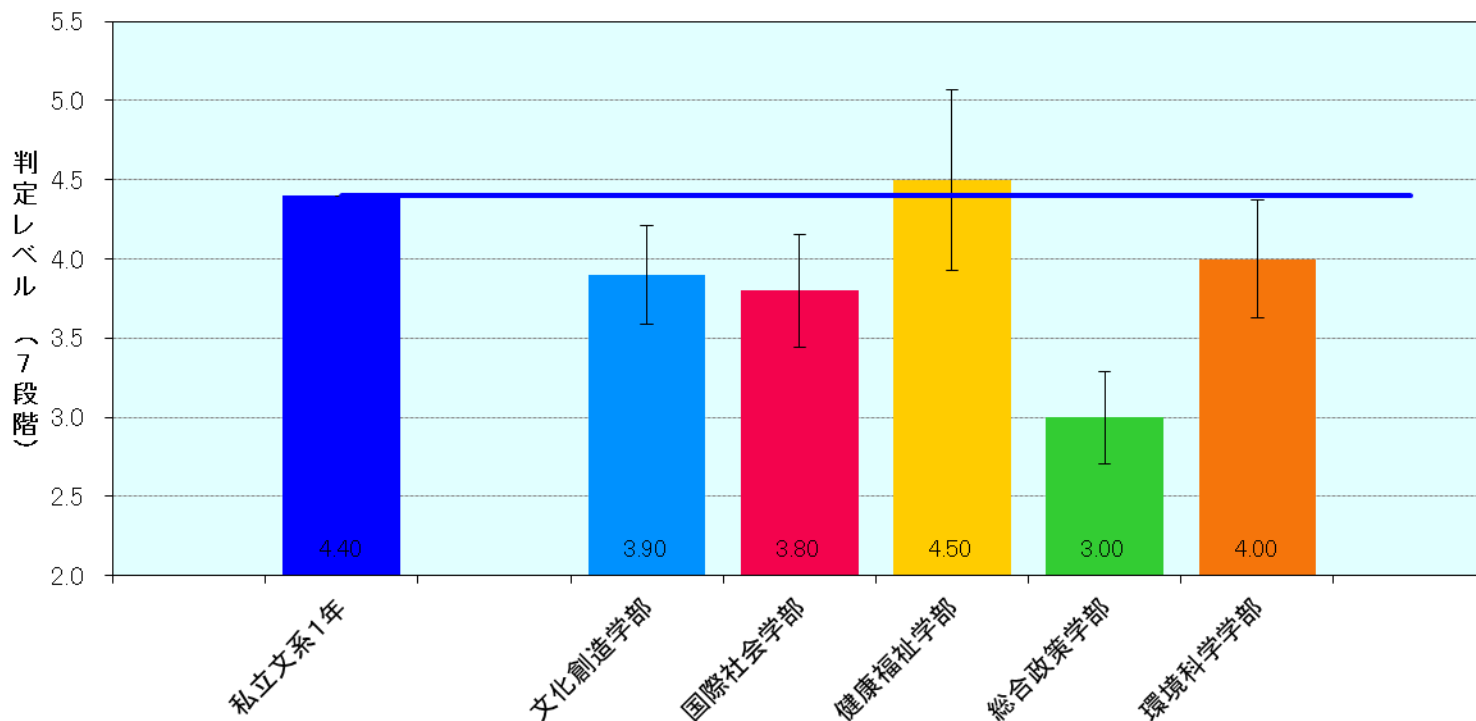
2-2 評価の信頼性 リテラシー総合判定



私立文系1年(基準値)に比べて、平均値が上回る傾向なのは、健康福祉学部。
下回るのは、文化創造、国際社会、総合政策、環境科学の各学部。

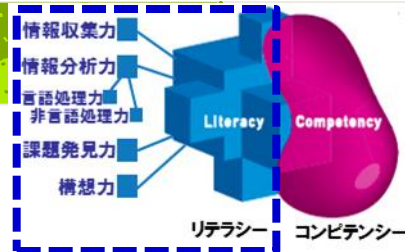
リテラシーは、論理的思考力の程度を反映しており、問題解決には欠かせない要素。どのような仕事にも普遍的に求められる力なので、大学における探求活動、研究・リサーチ、本質理解といった「学びの充実」によって、その伸長が期待できます。

リテラシー総合



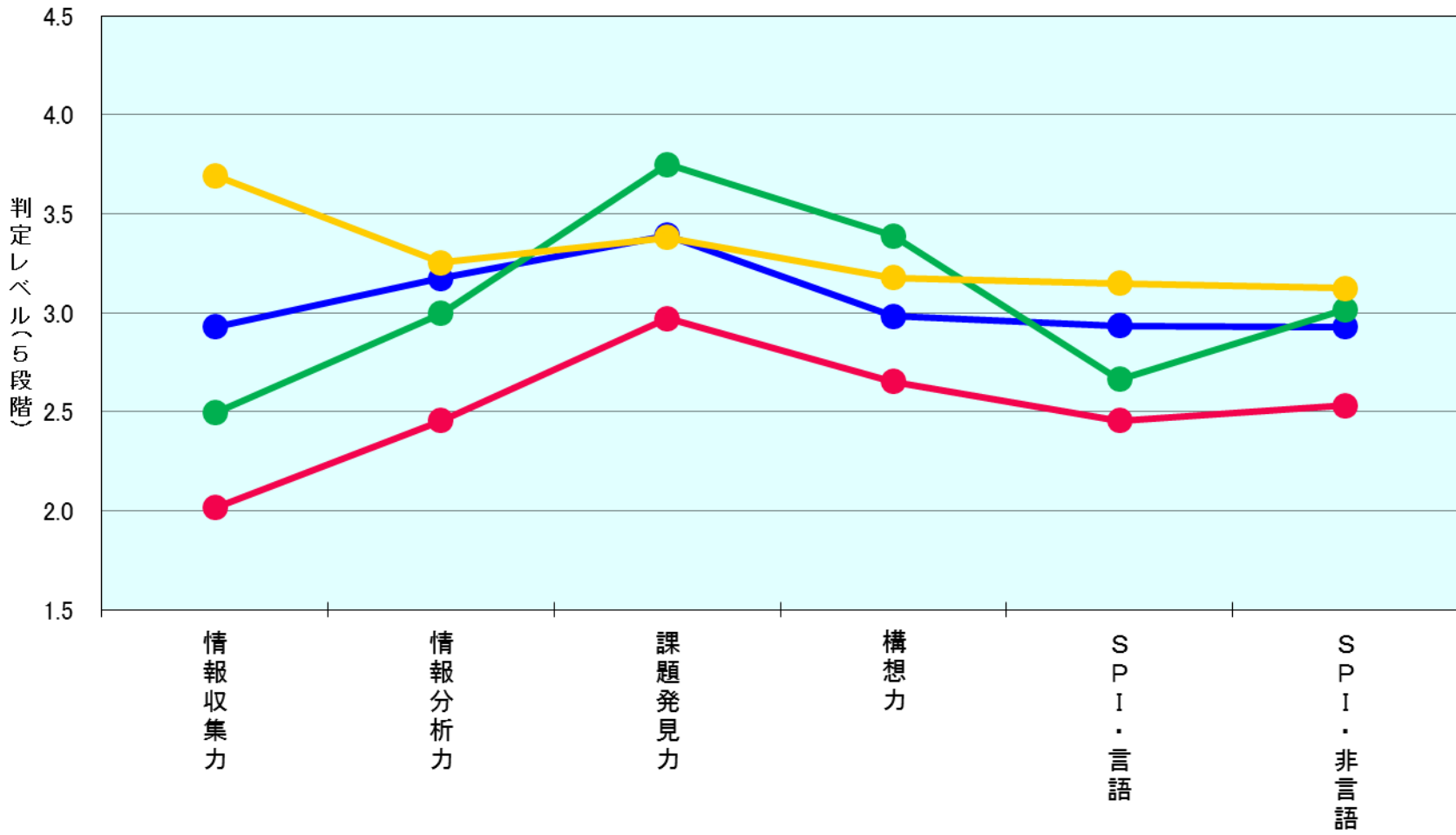
※それぞれ、スコア±標準誤差×2(SE)を縦線で掲載。
 ※各尺度の傾向に対するコメントは、1) 標準誤差×2の下限が基準値を上回る場合→「高い/上回る」
 2) 標準誤差×2の上限が基準値を下回る場合→「低い/下回る」
 3) 基準値よりも大きい、標準誤差×2の範囲内にある場合→「高い傾向/上回る傾向」
 4) 基準値よりも小さい、標準誤差×2の範囲内にある場合→「低い傾向/下回る傾向」
 の記述ルールによる。

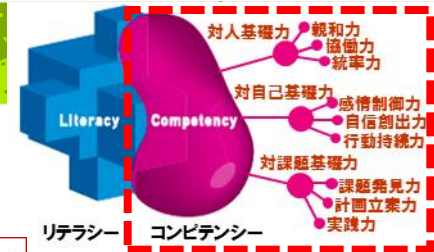
2-2 評価の信頼性 リテラシー要素別判定



リテラシー要素

● 私立文系1年 ● 文化創造学部 ● 国際社会学部 ● 健康福祉学部

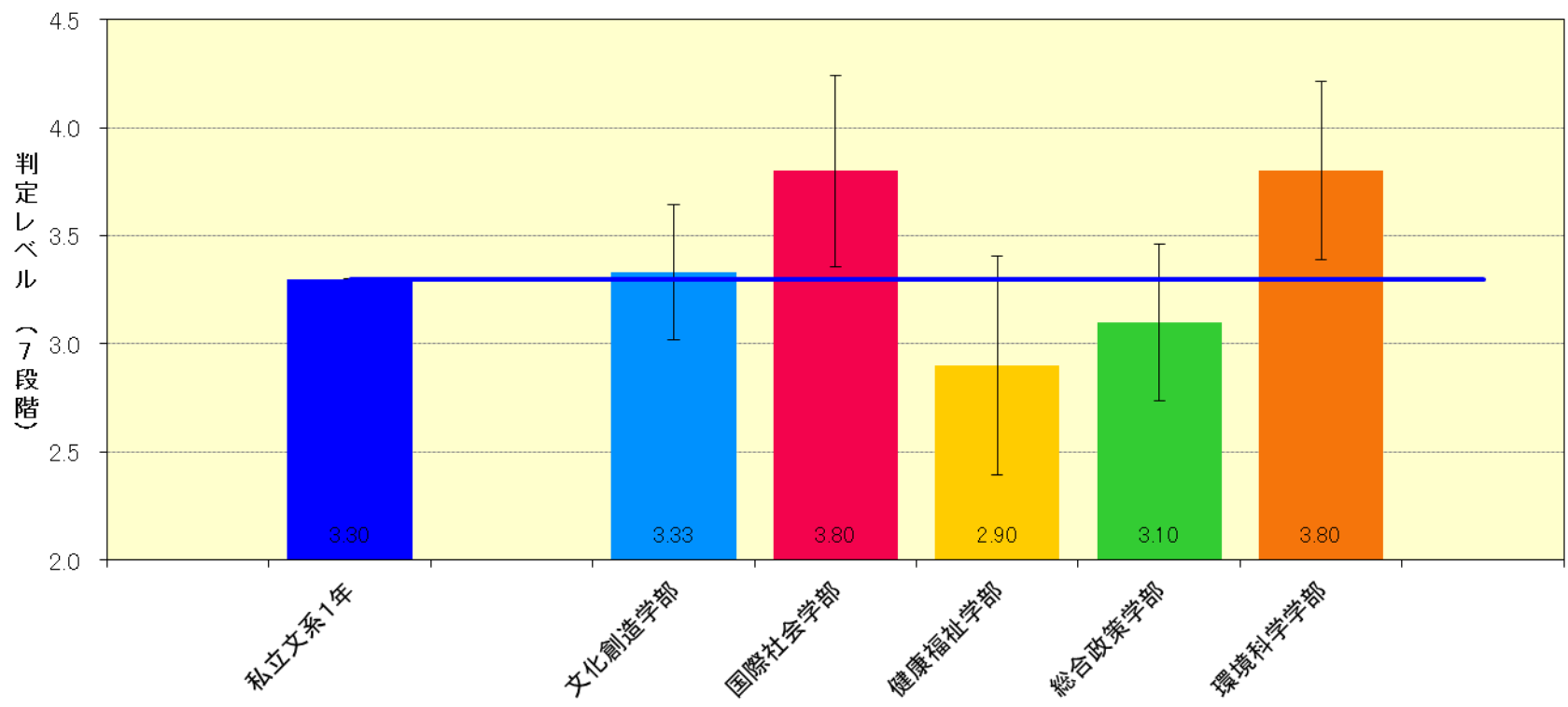




私立文系1年(基準値)に比べて、平均値が高いのは、国際社会学部と環境科学部。上回る傾向なのは、文化創造学部。下回る傾向なのは、健康福祉と総合政策の両学部。

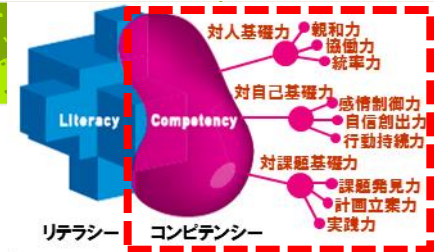
コンピテンシーは、社会人としての即戦力を担う力であり、初職の早い時期での発揮が期待されます。この力は、他者と協働して課題に対処するような経験の中で培われるので、計画的に授業の中に埋め込んだり、インターンシップ、PBL、サービラーニングといった体験型学習による強化が有効です。

コンピテンシー総合



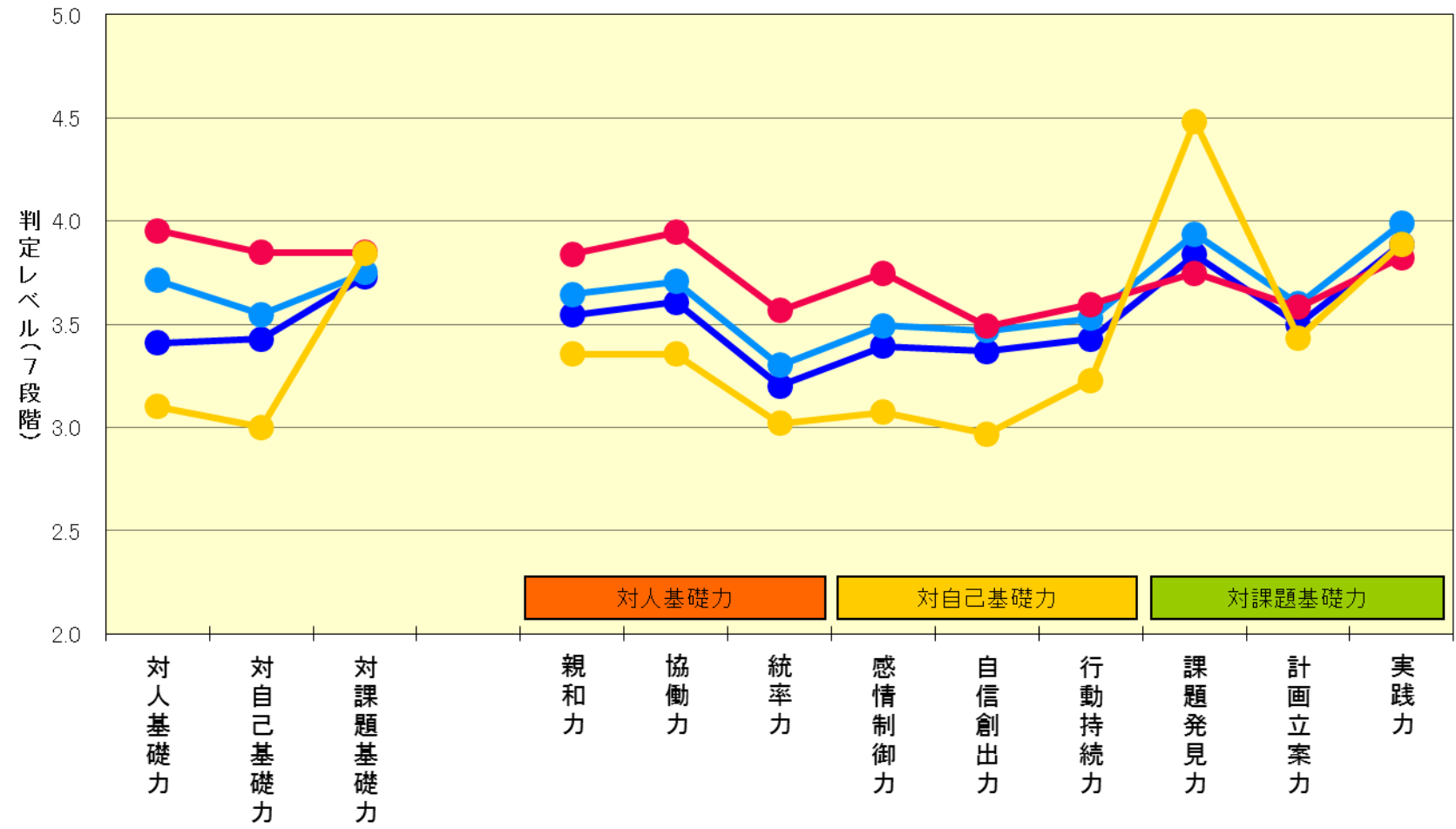
※それぞれ、スコア±標準誤差×2(SE)を縦線で掲載。
 ※各尺度の傾向に対するコメントは、1)標準誤差×2の下限が基準値を上回る場合→「高い/上回る」
 2)標準誤差×2の上限が基準値を下回る場合→「低い/下回る」
 3)基準値よりも大きい、標準誤差×2の範囲内にある場合→「高い傾向/上回る傾向」
 4)基準値よりも小さい、標準誤差×2の範囲内にある場合→「低い傾向/下回る傾向」
 の記述ルールによる。

2-2 評価の信頼性 コンピテンシー要素別判定



コンピテンシー 大・中分類要素

● 私立文系1年 ● 文化創造学部 ● 国際社会学部 ● 健康福祉学部



2-3 評価の実行可能性 ⑦短時間で複数回実施可能

■受験に必要な時間:

準備等(5分)+リテラシー(45分)+コンピテンシー(40分) ⇒ 計90分

1年生		2年生		3年生		4年生		卒業	
教職員の方々へご提供できる価値									
マーケティング 学生の現状を知る <ul style="list-style-type: none"> 学生の実態を知ることができます 学年別、学部別比較ができます 学生の課題を可視化できます 課題解決へのヒントや道筋が掴めます 学びへの動機づけができます 	施策検証 学生の現状を知る <ul style="list-style-type: none"> 1年次の施策を検証することができます 経年比較ができます 改善できた項目がわかります 改善できなかった点がわかります 次の施策立案に活かせます 	施策検証 学生の現状を知る <ul style="list-style-type: none"> 2年次の施策検証 新たな施策立案 	就職支援 課題別就職支援 <ul style="list-style-type: none"> トップアップ施策 弱者支援 	施策検証 学生の現状を知る <ul style="list-style-type: none"> 3年次の施策検証 新たな施策立案 	出口管理 社会に送り出す <ul style="list-style-type: none"> 成績、成果評価 	OB・OG支援 卒業生の支援 <ul style="list-style-type: none"> 卒業後の支援 OB・OGに社会人講座等を薦める 生涯学習のニーズに対応できます 			
PROG(Progress Report on Generic Skills)受検タイミングとして考えられる時期									
4月 	4月 	4月 	11月-12月 	3月 	通年 				
学生の皆さんへご提供できる価値									
マーケティング 自分の現状を知る <ul style="list-style-type: none"> 社会が求める力を知ることができる 強み弱みを客観的に把握できる 個人ワークで自己理解が深まる 大学生生活の目標を立てる 大学生生活の計画を立てる 	振り返りと計画 自分の現状を知る <ul style="list-style-type: none"> 1年次の成長度を確認できる 目標の再設定ができる 	振り返りと計画 自分の現状を知る <ul style="list-style-type: none"> 2年次の成長確認 目標の再設定 	就職活動 自己PRの作成 <ul style="list-style-type: none"> 自己PR作成 エントリーシート作成 面接対策 SPI対策 	キャリアデザイン キャリアデザイン <ul style="list-style-type: none"> 次に学ぶことを調べる 進学準備をする 留学準備をする 	キャリアチェンジ キャリアチェンジ <ul style="list-style-type: none"> 転職する 地位や収入をUPする 仕事のレベルをUPする 				

2-3 評価の実行可能性 ⑧ 大学の教育目標との融合

■長崎大学「教養教育目標キーワード」

■対応するPROGの詳細要素

領域	目標キーワード	具体化例
(技能・表現)	①自主的探究	○課題発見、○情報収集、○探究継続
	②批判的思考	○情報吟味、○客観性の担保
	③自己表現	○自己主張、○意見交換、○豊かな表現
	④行動力	○計画性、○果敢な決断、○説得
	⑤日本語コミュニケーション力	○適切な表現、○豊かな語らい
	⑥英語コミュニケーション力	○英語での日常会話、○英語でのメール交換
(知識・理解)	⑦基盤的知識	○専門分野の基礎的な知識、○現代的課題の基礎的知識
	⑧環境の意義	○生命と環境の関係、○環境保全の参加
	⑨多様性の意義	○多様性の尊重、○多文化理解
(態度・志向性)	⑩社会貢献意欲	○社会への関心、○課題への取組
	⑪学問を尊敬する態度	○学問の理解、○知識誕生への参加、
	⑫自己成長志向	○向上心の保持、○自律心、○たゆまぬ努力
	⑬相互啓発志向	○多様な価値観の尊重、○価値観を起点に交流、○協調

リテラシー	コンピテンシー(詳細要素)
○情報収集、○課題発見	○情報収集、○主体的行動、○完遂
○情報分析	○本質理解、○原因追求
○非言語処理力	○話し合う、○意見を主張する、○建設的、創造的な討議
○構想力	○目標設定、○実践行動、○シナリオ構築、○相談・指導、他者の動機づけ、○計画評価・リスク分析
○言語処理力	
教養教育、専門教育の学習履歴と学習評価、並びに担任教員評価	
	○遵法性・社会性
	○独自性理解、○学習視点による自己変革、○良い行動の習慣化
	○対人興味・共感・受容、○気配り、○多様性理解、○人脈形成、○役割理解・連帯行動、○信頼構築

2-3 評価の実行可能性 ⑧ 大学の教育目標との融合

■創価大学「就業力」

■対応するPROGの詳細要素

大学就業力	定義	中分類	内容/小分類	
1.論理的思考力	複眼的な視点から、論理的に思考を展開する力	リテラシー	課題発見力	問題の洗い出し・整理・分析・課題の設定
			構想力	構想力・解決策の絞込み・解決策の具体化
			言語分析力	言語的处理力
2.言語表現力	日本語及び外国語を用いて、正確な文章を書き、話す力		数量的分析力	数量的処理力
3.数量的分析力	数量的・統計的データを正確に把握し分析する力			
4.対人基礎力	目標に向けて、他者と協力的に仕事を進める力	コンピテンシー	親和力	親しみ易さ 気配り 対人興味・共感・受容 多様性理解
			協働力	役割理解・連携行動 情報共有 相互支援
5.討議推進力	世界の多様性を理解し、建設的に議論を推進していく力		統率力	話し合う 意見を主張する 建設的・創造的討議
6.自己育成力	自らの行動を律し、理想とする自己に近づけていく力		感情抑制力	セルフアウェアネス ストレスコーピング
			自信創出力	独自性理解 自己効力感・楽観的思考
			行動持続力	主体的行動 完遂
7.課題設定力	客観的に情報を収集し、本質的な課題を設定する力		課題発見力	情報収集 本質理解
8.目標達成力	自らの計画や目標を、具体的に実現していく力		計画立案力	目標設定 シナリオ構築
			実践力	行動を起こす 修正・調整 遵法性・社会性
9.創造的思考力	既存概念にとらわれず、独創的に考える力			創造力

PROGの下位要素を用いて、
大学オリジナルの教育目標に組み合わせて見ることが出来る。